

校長室の窓から

どっちの勝ち？ AIのお話①

このところ毎朝 5 時に、米津玄師さんの LEMON という曲で起こされます。この曲を選んだのは私ではなく AI です。



一か月ほど前、私は AI に、朝 5 時に音楽で起こすようにと伝えました。AI は、普段私が使っている音楽配信サービスの中から、私の好みを予測して選曲します。

AI に頼るまで私は、タブレットのアラーム機能を使って、目覚まし音楽を設定していました。実は、その中で米津玄師を選んだことは一度もありませんし、彼の曲が候補になったこともありません。

そもそも私は、J-POP を聞くことは稀。そして、音楽はアコースティックが最上だと考えていて、反対に米津さんのようなボカロ系の曲は好きではない。

だから普段、「朝の音楽流して。」と、ジャンルを指定しないで AI に頼むと、選ばれるのは決まってジャズ。

私のくたびれた有機物の脳でもその理由はわかる。だって、聴く頻度が一番高いのがジャズだから。

それなのに、なぜ朝 5 時に米津玄師？
血迷った？ AI。

2015 年、Facebook が企画した研究が米国科学アカデミーの紀要「PNAS」に発表され、大変注目されました。それによると、ある人間の性格や気質は、当人の同僚や親、配偶者よりも、AI のほうが早く正確に知ることができるといふものでした。

その研究で、対象となる人間に関するデータは、事前に AI には入力されません。AI は、ただ、Facebook 上で当人がクリックした「いいね」だけで、当人について「学習」していきます。

そして、「いいね」を、たった 10 個押すだけで、AI は当人の同僚よりも正確に当人について言い当てることができた。「いいね」150 回で家族以上になり、そしてわずか 300 回で配偶者に勝る。この結果は驚きです。

つまり、Facebook を使っているたいいの人にとって、自分を最もよく理解しているのは、何十年も連れ添ったパートナーではなく Facebook の AI だということになります。

ところで、AI が米津玄師の LEMON を選ぶまでには、実はこんなやり取りがありました。

最初の日、朝 5 時に流されたのはテンポが速いジャズ。

いきなりでびっくりしたし、うるさかったので、すぐに音量を下げ、「ストップ。」と言って止めました。

次の日もアップテンポのジャズ。で、すぐに「ストップ」。そして次は少しゆったりしたジャズ。しばらく聞いてから「ストップ」。そんなやり取りを 2 週間くらいしたでしょうか、突然、予想外に米津玄師の LEMON が流れました。「…ん？…なんで？」

と思いましたが、とりあえず目覚ましとしては邪魔にならなかったのも、最後まで聞いて、「ありがとう。」といて止めました。

そうしたら、次の日も LEMON。

2・3 曲目まで聞き流すようになると、1 曲目が LEMON に固定され、それに続く曲もすべて米津玄師となりました。

繰り返しますが、私はアコースティック最得意で、ボカロは嫌い。だから米津玄師は選ばないというのが私自身の答え。でも、朝の 5 時に米津玄師の LEMON で起こされるのは、わりと気に入っている。

感情を持たない AI は、決して血迷ったりしない。ただ「学習」によって出した答えが米津玄師の LEMON。

わずか 300 回の「いいね」でパートナーを凌駕する AI が、私の反応と視聴データを解析し、私自身の好みに関して、私自身と異なる最適解を得たという事実は、とても刺激的で興味深いと思いました。

この結果に刺激され、私は、わが妻と AI を対戦させてみようと思いました。

AlphaGo 対 ^{イセドル}李世石ならぬ、目覚まし AI 対 ^{ヤンキー}うちの妻。ワクワクの対戦は、当の妻にはもちろん内緒。

ということで、日曜の午後、妻に、「これから昼寝するけど、目覚まし音楽何がいいと思う？」と聞く。すると、

「好きにすれば。」と、実にそっけない。

あらま、開始直後にこの実験は終わりか・・・と思っていると、

「選んでほしい？」と訊いてくるので、「ぜひ」と任せる。

で、1 時間後に流れたのは昭和歌謡の青江三奈。時代錯誤と場違いに頭と心が大混乱。可笑しくなって目が覚めた。そして妻は、してやったりというどや顔。

さて、この対戦どっちの勝ちか。米国科学アカデミーに聞いてみようと思います。